

「オランダ留学中！」

さかおの さあ かおをあげて



巻頭言

オランダの空気の中で

坂尾連太郎先生支援会
常石 召一 (神戸改革派神学校61期生)

坂尾先生ご一家が無事オランダに移り住まれてからまもなく1年になろうとしています。

出発前は住居がなかなか決まらないなど心配しましたが、それも整えられて感謝です。

支援会では時折、坂尾先生ご夫妻を交えてオンラインにて会議をしています。先生ご夫妻は、特に困っていることや支援を求めたいことがあるとはおっしゃいません。けれどもやはり、文化も環境も日本と大きく違うオランダでの生活ですから、私たちには想像もつかない苦労もあるのではと案じておりました。そうした折、わが家の娘達がGWを利用してオランダを訪問してきました。私としては、献身者の苦労を間近に見て支援の思いと祈りを深め、また不足していることを見出して報告して欲しいという思いで送り出しました。しかしどうも娘たちの関心は、可愛い深音君と透音君と遊ぶことの他は、チューリップと風車とミッフィーに向いていたように思われます。ただ円安の影響は想像以上だったようで、ハンバーガーセットが一つ5,000円もしたので三人で分けて食べたそうです。オランダで生活するのは大変だと思う、と言っていました。

坂尾先生の学びは、日本の改革派教会全体の将来にとって益になることだと思います。どうぞ坂尾先生とそれを支えるご家族を覚えて、引き続きお祈りとご支援をお願いいたします。



「学びのための特別な時間」 坂尾連太郎

1. 感謝

主の御名を賛美いたします。

私たちのオランダでの生活と学びが多くの方々のお祈りとご支援によって支えられていることを覚え、心から感謝いたします。

昨年の8月にオランダに到着してから、早10カ月が経とうとしています。時間が経つのは早いことを痛感しています。留学は2年間の予定ですが、もう半分近く過ぎたことになります。

私は今、このように学びに集中できる特別な時間と環境が与えられていることを心から感謝しています。牧師の働きをしながらでは、これほど集中して学ぶことはできませんでした。この特別な時間を無駄にすることなく、将来の働きの基礎となるような学びをしていきたいと願っています。これからもお祈りに覚えていただければ幸いです。

2. これまで学んできたこと

私はユトレヒト神学大学の新約聖書学の修士課程に入りました。これは留学生向けの英語で行われる1年コースです。しかし、私は2年かけてこのコースを行い、同時に他のコースの授業をいくつか受けることにしました。以下では、私がこれまで学んできたことの一部を紹介させていただきます。

① 「異文化間で聖書を読む」

これまで私は、「異文化間改革派神学 (Intercultural Reformed Theology)」の修士課程の授業をいくつか受けてきました。一つは「異文化間で聖書を読む (Reading the Scriptures Interculturally)」です。授業ごとに定められた聖書箇所を釈義し、解釈していくのですが、同時に自分の文化や文脈との関連性も考察するように求められました。まず聖書の時代の文化、文脈においてその箇所が何を意味していたかを聞き取り、次にそれが現代の日本の文化や文脈においてどのような意義を持っているのかを探る必要がありました。このコースを通じて、文脈や文化に敏感 (sensitive) であることが、聖書解釈や神学において重要であると学ぶことができました。

どの授業でも、最後の課題として自分でテーマを決めて論文を書かなければなりません。この授業では、日本のプロテスタント教会における個人主義や霊肉二元論の傾向を念頭に置きつつ、「キリストにおける新しい創造—第2コリント5章17節の釈義と適用—」というテーマで論文を書きました。

②「改革派神学の核心と構造」

第二に、「改革派神学の核心と構造 (The Core and Fabric of Reformed Theology)」という授業を受けました。この授業を担当してくださった組織神学のハンス・バーガー(Hans Burger)先生はこの神学校で中心的な役割を担っておられるようです。この授業では、カルヴァン、ジョン・オーウェン、バーフィンク、スキルダー、ベルカウワーといった神学者たちの著作を読みました。バーフィンクやスキルダーなど、私はこれまで名前を聞いたことはあっても、その著作を直接読んだことはありませんでした。しかし、この機会に彼らの著作に触れることができ、またバーガー先生が、それぞれの神学者が置かれていた歴史的文脈や、その特徴を教えてくださいました。私は最終課題として「改革派神学における古い契約と新しい契約との性相と相違—律法主義を防ぎ、健全なクリスチアン生活を送るために—」という論文を書きました。から関心のあった「契約神学」への理解を深めるとなり感謝でした。

③パウロ神学の学び

これまでご紹介したのは「異文化間改革派神学中の講義」です。実は「新約聖書学」の対面授業に度(今年の9月)から始まり、これまでは自習中学びをしてきました。しかし、担当のミリアム・ンカー(Myriam Klinker)先生が丁寧に指導してくり、良い学びができています。私は新約聖書の中特にパウロ神学を学びたいと考えており、これまでもルマン・リダボスやダグラス・J・ムーのパウロに関する著作を読んできました。また現在はローマに関する論文を書くための学びをしています。「使徒的パウロ (Apocalyptic Paul)」運動との対話をに置きつつ、「ローマ書1~8章の救済論における“認”と“解放”との関係」というテーマで論文を書いています。様々な学者や学派との対話を通して刺激を受けつつ、聖書を読み直すことを通して福音理解を深め、豊かにしていければと願っています。

3. 終わりに

以上、これまで学んできたことの一部を紹介させていただきました。今改めて感じていることは、学ぶべきことはほぼ無限にあり、生涯のうちに学ぶことはわずかに過ぎないということです。特に私は本を読むのが遅く、英語力の不足もあり、一つのことをするのに時間がかかります。

左) シンタクラスと
右) ストローブワッフルの屋台にて

しかし、神様が今私にこの場所で学ぶ機会を与えて下さっていることには意味があると信じ、感謝しています。そして神学の学びは、それ自体のためではなく、現場における福音宣教と教会形成のためにあります。そのために益になるような学びができるよう、聖霊の導きを祈りつつ、これからも一所懸命に学んでいきたいと思っています。牧田先生からは「死ぬ気で勉強なさい」と言われています。そこまでできているか自信はありませんが、最善を尽くしたいと思っています。

祈禱課題

1. ユトレヒト神学大学で良い学びができ、それが将来の福音宣教と教会形成に資するものとなりますように。聖霊による知恵、導き、力が与えられますように。
2. オランダでの家族の生活、健康が守られますように。日々の必要が満たされますように。



長男・深音

昨年11月からEdeという町の特別支援学校に通っています。よく先生の膝にのっています。とても穏やかにニコニコ過ごしています。

次男・透音

放課後に遊ぶ友だちもでき、楽しく暮らしています。牧田先生ご家族からは「子どもはすぐにオランダ語を話せるようになる」と聞いていましたが、相変わらず何もわからないそうです。それなのに友だちがいるのがすごい。

まちがいさがし



まちがいは
全部で16こあります



妻のさかおはそんなに顔をあげていない

坂尾亜海

ニュースレター第1号にて、わたしの文章が載っていない、苦労話もあるだろう…と問い合わせがあったと聞いて、そんな需要ないやろ…と思いつつも書いてみることにしました。



・オランダに来たことへの不安とストレス

わたしは元々旅行が大好きで、ヨーロッパに憧れがあり、ぼんやりとヨーロッパで暮らすのは楽しそう！オシャレ！というイメージがありました。しかし、実際に住むのと、楽しく旅行で訪れるのは違うということに気づくのです(笑)。特に、子どもたちもいる上に、わたしたち親はふたりとも無職で、現地語のオランダ語はまったく話せない…それでオランダに来ていうことに、来てから衝撃を受けました(気づくの遅すぎるけど)。

ヨーロッパといえばかわいいレンガ造りの家々、おしゃれなカフェやパン屋…などなどイメージはあると思いますが、数週間すればレンガ造りの家々は見慣れるし、おしゃれなカフェやパン屋は高くてほとんど行きません。日本のほうが物価も安く、子どもたちの口に合う食事もうえできるし、学校では給食が出る。高知はほとんどの食べものがおいしかったし、当たり前だけど道行くひとのほとんどと日本語で会話ができる…、働く場所があるし、自分の居場所がある…。

最初の頃はオランダ人と話せないことに凹みました。まわりには優しいひとが多く、オランダ語を話せないと割り切るわたしたちに、英語でコミュニケーションを取ってくれるひとばかりです。しかし、別に英語ができるわけでもないのに、何を言ってるかイマイチわからなくてもニコニコしてしまい、それがかえって自分を追いつめ、ヘラヘラしてその場をやり過ごす…それがストレスでした。しかも、夫も留学する割には英語でのやりとりがほとんどできず(10ヶ月後の今は当初より頼りになりますが)それも不安でした。

結局元々ひとりで過ごす時間が大好きなのと、外に行くには交通費なども使ってしまうため、家でひとりで過ごす時間が多くなりました。前述したとおり、ひとりで過ごすのは大好きなので、さみしいとか孤独という気持ちはほぼありませんでした。しかし、働き盛りなのに、こんな老後の先取り生活みたいなことをしていいのだろうか…という不安はありました。今頃日本ではみんな頑張ってるって聞いて、わたしたちはそこから支援金をいただいているのに、自分は一体何をしているんだろう…日本に残れば実家で暮らしながらアルバイトをして、少くくははお金が稼げたのに…と思うことも少なくありませんでした。

・刺しゅうとの出会いと心の変化

そんな中で、心の支えになったのは月1のオランダ南部日本語教会でした。呼吸するようにひとと意思疎通できる！というのがそれだけでとてもうれしく、楽しく過ごしています。また、創作の仲間に出会えたことも大きなよこびです。わたしは数年前からミシン作業を趣味としていたのですが、こちらには愛用のミシンを持ってくるのを断念しました(変圧器もいるし、紛失すると困るため)。そんな中で、日本語教会のYちゃんという同世代の女の子に出会いました。彼女はラタンを編んでアクセサリーなどを作っていて「わたしも裁縫が趣味やねん！」ということで仲良くなり、一緒にマーケットに出店しないか誘ってもらえたのです。しかしわたしは、小さくて性能がイマイチなサブミシンしか持ってきておらず、何をつくろうか悩みました。自分の手から生み出すものを、もし外国のひとが気に入ってくれたら、それはわたしの中でとても貴重な経験になるかもしれない。そして、わたしは過去2回挫折をした刺しゅうをはじめることにしました。

SNSには投稿しましたが、4月末にマーケットに出店するも、売れたのはほんのわずかでした。けどわたしにとっては、老後の先取りのようなしあわせな生活をしているにも関わらず不安だった以前より、自分を刺しゅうで表現することができる感じる今のほうがしあわせです。また、刺しゅうを頑張りたいという目標ができたおかげで、元々趣味だったイラストの勉強もしたいと思うようになりました。

英語もオランダ語もできず、ほとんど自分を表現するということを忘れ、ただ家の中でひとりいたところから、大きな変化でした(まあパッと見は結局わたしが家にひとりでいるだけなので、絵面に大きな変化はないのですが…笑)。

・いま思うこと

自分はここでは話せもせず聞けもしない、働けもせず、ひとの役に立つこともない…と思い、それを不安に感じたり窮屈に感じるのは、結局自分のおごりたかぶりだったのではないかと気づきました。本当は自分をもっとひとの役に立てる、自分の力で立つことができる人間だと思っていたのかもしれませんが。自分は小さなもので、この国でできることはほとんどないけれども、今この限られたオランダでの時間は神さまから与えられ、また、夫を応援してくださるたくさんの方から与えられた時間です。自分ではなにもできない！と思い知ることも、わたしには必要な気づきだったのでしょう。そしてこれは、刺しゅうという自分を表現する手段を見つけ、気持ちが前を向いたから気づくことができたのだと思います。神さまはわたしを折らずに、助け手や目標を与えてくださり、導いてくださると感じます。あと1年と少し、なぜわたしはここに呼ばれたのか、考えたいと思います。

コラム ～されば かみさま おいのりします～

先日、激しい歯の痛みで襲われたという坂尾先生。いよいよ我慢できなくなって歯医者さんに駆け込んだはいいものの、日本とは勝手の違うシステムに四苦八苦されたとのこと。異国の地にあっては良い病院を見つけるのもひと苦労、お医者さんに痛みを伝え、適切な治療を受けるのもふた苦労、適額な治療費を支払うのもみ苦労、ちょうど亜海さんが緊急の用事で日本に一時帰国されていたこともあって、よん苦労と、まあ、ご苦労が重なりました。

はてさて、そのお話を聞きながら、思い出されたのが『告白』の一場面。アウグスティヌスがカッシアクムという場所で、プチ修道生活を送った時のことです。そこで、やはり激しい歯の痛みで襲われたアウグスティヌス。いよいよ我慢できなくなったときに、心に浮かぶ二つの御言葉がありました。「主は命の神。わたしの岩をたたえよ。わたしの救いの神をあがめよ」（詩編18編47節）、「わたしの救い、わたしの主よ、すぐにわたしを助けてください」（詩編38編23節）。

そうだ！今、なすべことは「救いの神」に切なる助けを求めること！と、アウグスティヌスはその場に居合わせた友たちに、「あらゆる意味での救いの神」（『告白』9.5.12）に祈ってほしいと願い出ます。歯が痛すぎて喋れませんから「蛭板」に書いてです。友たちは「心をこめて」、「ひざまずいて」（同）祈ってくれました。すると、痛みはあっという間に去ったといいます。そうして、また一つ、救いの神に真剣に祈ること、友に祈ってもらうことの大切さをアウグスティヌスは学んだのでした。

ちなみに、坂尾先生の歯の痛みは亜海さんがオランダに戻って来られると、すっかり去ってしまったとのこと。そこでも神様から大切なことを教えられた坂尾先生は、「わたしは驚きました」（同）と、『告白』にある同じ言葉を発したとか発しなかったとか。（柏木貴志）



パキスタン人のクラスメイトと交流



キューケンホフ公園にて

会計報告

会計報告(2024年7月～2025年4月)

単位:円

収入		支出	
献金	2,411,900	ニュースレター発行費	11,568
		ニュースレター郵送費	3,760
		坂尾先生へ	2,396,572
合計	2,411,900	合計	2,411,900

献金者お名前（五十音順、敬称略）2024.7～2025.4

青山昭一郎、安部順子、石原知弘、石元フミ子、大西東子、柏木貴志・知恵、柿沼亘、片桐耕治、斎藤和則・一実、坂尾壮二郎、静岡教会、芝明義、柴田美智子、下元奨、諏訪保・ちか子、千里摂理教会、高松教会、宝塚教会、ダニエル所、田村真理子、常石一路、常石えり・有田正子、常石昭一・和美、長丘教会、野村昇、松田基教・知恵子、松村道雄、山口耕平、山田修太郎、山村貴司、横浜中央教会、吉田鈴香

多くのご支援ありがとうございます。
支援金の送金先は以下の通りです。

ゆうちょ口座からご送金の場合

【記号】16440

【番号】13201411

【名義】坂尾連太郎（サカオ レンタロウ）

ゆうちょ口座以外からご送金の場合

【店名】六四八（読み ロクヨンハチ）

【店番】648

【預金種目】普通預金

【口座番号】1320141

送金して下さっても名前が一部しか表示されず、どなたかが分からない場合がありますので、送金して下さった旨を、支援会のメールアドレス(sakao-shienkai@osaka-rcj.org)宛てにお知らせください。



HPはこちら



メールはこちら

まちがいさがしの答えも
支援会公式HPをご覧ください
またスマホの壁紙にお使いいただけるイラストを
配布しています！
よければあわせてご覧ください

